

「今後の県立高校に関する地域検討会議」（第2回）の概要

1 実施状況

ブロック名	ブロック内市町村名	実施日時	会場	出席者数（事務局を除く）				
				会議構成員	県議会議員	県立高校長	一般傍聴	報道関係
盛岡①	盛岡市、滝沢市 雫石町、紫波町	平成27年 8月7日（金） 10:00～12:00	岩手県 公会堂	18	3	12	5	4
盛岡②	八幡平市、葛巻町 岩手町、矢巾町	8月7日（金） 14:00～16:00	岩手県 公会堂	18	-	4	6	1
岩手中部	花巻市、北上市 西和賀町	7月24日（金） 14:30～16:30	県農業研 究センター	16	3	8	13	1
胆江	奥州市、金ヶ崎町	7月24日（金） 10:00～12:00	奥州市江刺 総合支所	11	2	9	4	3
両磐	一関市、平泉町	8月18日（火） 10:00～12:00	一関地区 合同庁舎	10	2	6	6	2
気仙	大船渡市、陸前高 田市、住田町	7月31日（金） 14:00～16:00	大船渡 市役所	11	-	4	5	2
釜石・遠野	遠野市、釜石市 大槌町	8月10日（月） 14:00～16:00	釜石商工 高校	15	2	5	2	-
宮古	宮古市、山田町 岩泉町、田野畑村	8月11日（火） 14:00～16:00	シートピ アなあと	16	1	8	6	-
久慈	久慈市、普代村 野田村、洋野町	7月22日（水） 14:00～16:00	久慈市防 災センター	15	2	5	2	3
二戸	二戸市、軽米町 九戸村、一戸町	8月19日（水） 10:00～12:00	二戸地区 合同庁舎	16	1	5	5	1
計				146	16	66	54	17
				299				

2 会議内容

- (1) 学校、学科の配置に係る対応（ブロックに必要な学科、校舎制の活用、通学支援等）について
- (2) 小規模校を中心とした魅力ある学校づくりに向けた地域（市町村等）との連携・協力の在り方について

3 意見等のまとめ

- ・ 魅力ある学校にしていくためには、地域が高校を支援する等、教育環境を整える取り組みが重要になる。
- ・ 人口減少社会に対応した総合戦略の策定を進めている中で、地元の高校は存続が前提となっており、小規模校のある地域の事情を十分考慮し検討を進めてほしい。
- ・ 学校規模の維持、教育機会の保障等の観点から校舎制について検討していくことも必要である。その他、ブロックにおける普通科・専門学科等の選択肢の確保、地域に根ざした特色ある学科の設置、小規模校の課題解決に向けた教員の相互派遣等、様々な意見があった。

「今後の県立高校に関する地域検討会議」（第2回）の主な意見提言

ブロック	主な意見・提言等
盛岡 ① (盛岡市、滝沢市、 雫石町、紫波町)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材育成や発展、地域の伝統文化の継承のためには地域の高校は必要である。 ・地域との連携を考える場合、地域と高校と大学との連携ができればよいのではないかと考える。大学を活用することにより、地域と高校生、大学生の交流が生まれ、より地域理解が深まっていくのではないかと考える。 ・高校再編にあたっては、特別な支援を必要とする生徒への指導等、他機関とのさらなる連携の取り組みが必要。 ・校舎制については、運用面についての課題はあると思うが、生徒の教育機会の保障等の観点から検討に値するのではないかと考える。 ・地元の学校で学ぶことにより、地域に貢献しようとする意識が芽生え地域への愛着が生まれるものと考えられる。そういう人材を育成すべきである。 ・地域の小規模校では地域と密着した活動を行っており、生徒は地元への愛着心が強い。高校再編にあたってはこのような実績のある小規模校への配慮が必要と考えている。
盛岡 ② (八幡平市、葛巻町 岩手町、矢巾町)	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村が県立学校をより魅力ある学校にするために努力をしていることを御理解いただき、自治体の願いに応えるような再編計画をお願いしたい。 ・地域にとって魅力ある学校とは、地域住民、生徒等全ての人たちにとって魅力ある学校でなければならない。そのためには幼稚園、小中学校、福祉関係、企業関係等、全てと連携していくことが大事である。 ・高校再編では校舎制という形でも地域に高校を残し、若い人が地域と連携した活動を行い、地域のことをしっかり考えるようにしていく必要がある。 ・教員相互の授業参観や授業交流等、中高の連携は今後、益々大事になってくる。 ・魅力ある高校づくりを行うには、地域からの要請だけではなく高校側から積極的に地域に関わっていくということも必要である。
岩手中部	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、高校は義務教育に近い状態にあり、高校教育を受けられる機会をどの地域にも提供することは大事である。その中で、生徒の多様な進路希望への対応、部活動の縮小化、同世代との切磋琢磨といったことへの影響は大切なポイントであり、これをフォローするために我々大人が考えていかなければならない。 ・校舎制を導入するよりも、拠点校を中心に、先生が巡回して授業をすることが実質的ではないか。 ・市町村との連携がエスカレートすることへの危惧を感じる。これを前提に存続の条件とするのであれば、県教委が関わる領域と市町村が支援する範囲を整理し、ルール化することが必要ではないか。 ・教員の多忙の原因には部活動指導があることから、地域の指導者が生徒の指導にあたる等、地域との連携も考えてはどうか。 ・全ての学校が万遍なく部を持たなければならないということはない。これもある意味学校の特色であり、少ない部でも全国大会に出場するというのも、学校のPRになるのではないかと考える。 ・講師等の確保のため、IターンやUターン等による再任用者を本県で採用できないか。 ・高校選択においても、盛岡市の中心部の高校と県内全ての高校が同じでなくても、そういう高校に進学するという選択肢を確保することも大事ではないか。

岩 手 中 部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県に教員定数があることを踏まえ、他県から再任用者を市町村が嘱託という形で採用し高校で授業させることが制度上可能なかどうか。それができれば、充実した教育活動が小規模校でも可能となるのではないかと。大胆なことをしないと課題の解決はなかなか難しい。
胆 江	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胆江ブロックには普通科が3校、農業、工業、商業の専門高校、私立高校があり、非常にバランスが取れている。高校の選択肢は減らさないで欲しい。 ・ 農業、商業、工業高校のどれか一つでも無くなることは胆江地区として致命傷になるので、高校存続を前提にしてほしい。 ・ 岩手県の高校の大学進学における全国的位置付けは低いと感じている。普通科高校ではもっと大学進学に特化した形も作っていかなければならない。 ・ それぞれの高校の特長をしっかりと中学生にPRし、ブロック外からも生徒が入学するようにしていくことが何よりも先なのではないか。 ・ 地域の支援協力や連携を望むのなら、市町、高校、中学校を入れた協議の場が必要ではないか。 ・ あまりに小規模になっていくと部活動ができなくなってしまう。中学校でも少子化の影響で部活動を維持できなくなってきたおり、自分がやりたい部活動がある中学校を選ぶ生徒もいる。 ・ 高校再編の議論において部活動が重要視されているが、高校では勉強が一番重要ではないか。中学生が部活動のために高校を選択するというのには疑問がある。 ・ 文化部の活動を地域の指導者等に依頼することにより、趣味や自分がやりたいことを行うことがあってもよいのではないかと。 ・ 小規模校は部活動や開設科目においてデメリットの面があるが、中学生が高校を選択する際にはそのようなデメリットもあることを踏まえながら選択させてもいいのではないかと。
両 磐	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一関地域には県境があり、一つの施策が一つの自治体で完結することはない。そのため、より広域的に考えていかなければならないと、ブロック単位での高校再編にこだわりすぎないで欲しい。 ・ 県境を超えて高校へ入学するには様々な条件があるようであるが、同じ通学エリアにある高校については同じ条件にして欲しい。 ・ 校舎制は一関地域では難しいのではないかと。特に普通科は本校、分校というような関係になってしまうため難しい。 ・ 私学の運営にも配慮した再編計画として欲しい。 ・ 小規模校でも生徒が入学したい魅力ある学校にするためには、地域と連携し、国際化や6次産業に対応する等、特化した高校をつくる方法もあるのではないかと。 ・ あまりに少人数になった場合の一定の基準を県としては考える必要があると思うが、学年1学級だからといって単純に再編して欲しくない。
気 仙	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校教育に対し、ベストな教育環境を提供することが大切である。そのためには統合もあり得る。また、様々な状況から統合が難しい場合、地域が高校を支援する等、教育環境を整える取り組みが必要になってくるのではないかと。 ・ 中山間地域の市町村では、高校再編により地元の高校がなくなれば、15歳人口の転出が大きな課題となる。中学校を卒業すれば地元の市町村からいなくなる。18歳になれば岩

<p>気 仙</p>	<p>手県からいなくなる。そのあたりを総合的に勘案し高校再編を考えていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎制を導入することでお互いを生かし合える体制になるのか。メリット、デメリットの十分な検討が必要ではないか。 ・現在の復興需要 440 億円相当で約 240 人の流出を防いでいること等を考えると、人口の流出をとめるための産業振興は簡単なことではないことを認識した上で対応することが重要である。 ・家庭で親が子どもに教えることは大事だが、高校でも世の中の厳しさ、自立心等、社会に出て通用するような人間形成に関わる指導をもっとお願いしたい。 ・地域との連携をより深めるため、産業団体の講師を招いた出前授業や 1 週間程度のインターンシップを検討してはどうか。 ・募集定員で教員定数は決まるが、例えば 3 学級募集でも 4 学級のクラス編制とする教員配置をすることにより、ブロック内での進学等の機能が果たせるよう工夫して欲しい。
<p>釜石・遠野</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校の維持と人材の確保のためには、県立高校だから県だけの責任でというだけでなく、所在地の市町村にも責任や役割があるはずである。経営面で県が対応できない場合は、市町村にも経費の負担をお願いしながら、高校を存続させるべきではないか。 ・各市町で様々な活動をされている方をメンバーにした、魅力ある高校づくりに対するアイデアを募るような検討会を開いてはどうか。その中で出されたアイデアをある程度ブラッシュアップし、具体のものをまとめるということも必要ではないか。 ・今ある高校に特色あるコースや学科を充実させていくということが大事ではないか。 ・特長ある学科より、特徴のある教員の配置が必要ではないか。 ・今ほど高校生が地域活動やボランティアに積極的にかかわっている時代はないと考えている。その中で、魅力ある学校とは何なのか。地域住民は地元の高校を評価していても、そこに入学する生徒が少なく定員を満たさなければ魅力がないと判断するのか。 ・大槌町は地域の多くが被災し、これからの高校生がどうなっていくのか見えない状況にある。再編計画は前半 5 年間の具体案を策定するということであるが、もう少し復興の先が見えた時期に計画を策定してほしいと考える。 ・ものづくり専攻科の設置について、地元企業や商工会の意見をまとめて要望しているものであり、釜石市の現状も把握のうえ検討していただきたい。
<p>宮 古</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宮古市内にある普通高校や専門高校はいずれ再編をしていかなければならないだろう。高校自体の再編なのか学科の再編なのかを十分検討し、子ども達にとってよりよい環境を作っていかなければならない。 ・山田町や岩泉町にある高校は町に一つしかない高校なので、町の意向を十分に尊重しながらその在り方を考え、機械的な高校再編は行わず段階的に検討していくことが必要である。 ・魅力ある学校づくりを進めることは、他方、生徒の奪い合いにつながるので、ブロック全体のバランスを考えた高校配置を検討しなければならないのではないか。 ・魅力ある学校にするためには部活動や生徒会活動を活発化させることが重要である。そのためにはある程度の学校規模は必要で校舎制を含め検討していくことが必要であり、他の統合事例等を精査しながらメリット・デメリットを示し、高校の在り方を考えていつてはどうか。 ・宮古ブロックはバランスの良い高校配置となっている。これをどうスリム化していくか

宮古	<p>が課題となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校の課題の一つである教員配置に限られるというデメリットの克服手段として、ICTの活用を検討してもよいのではないか。 ・岩泉町では地方創生との関係で、人口減少社会に対応した総合戦略の策定を進めているところであり、その中では、岩泉高校の存続が前提となっている。こういった地域事情を十分考慮していただき検討を進めていただきたい。 ・交通事情のよくない小規模校の在り方等、教育の機会の保障や通学支援の各論について協議する場は別にあるのか。 ・地域文化の継承に高校の果たす役割は大きい。単に生徒の数だけで高校再編を進めることのないようお願いしたい。
久慈	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内の学校・学科の配置について、久慈地区に進学に対応できる学校が必要だということは皆さんの合意だと考える。 ・小規模校のデメリットを克服する方法として、校舎制は一つの選択肢ではないか。 ・いずれ、生徒が将来減ることを考えると校舎制は必要最小限にすべきではないか。 ・1学級40人定員について、高校標準法で定められているものではあるが、現状のままです。定員の見直しを検討する余地はないのか。 ・人材育成は、市町村にとって死活問題であり、県にとっても一番大きな問題である。学校を統廃合した場合、県はどこまで面倒を見るのか。丁寧に見て頂くことが必要である。 ・地方創生とのタイミングも考えて頂かないと、プランを作ってすぐに修正しなければならないということになりかねない。 ・県で寮を作ることは難しいと思うが、葛巻町での取り組みや他の事例も含め保護者の経済的な負担を減らすことを考えなければならない。
二戸	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、県教委・学校・市町村の三者が小規模校の魅力ある学校づくりについて話し合いをする機会がなかった。各市町村の代表が集まる場では意見を出しにくいので、是非、各市町村に出向き地元の高校について話し合いの場を設けて欲しい。 ・講師等の確保、生徒会予算等の確保といった財政的な課題については、県教委だけで対応するのは難しいということで、市町村との連携・協力を打ち出していると思う。この課題克服に市町村が覚悟を決めて支援すれば、克服できる問題ではないか。それぞれの市町村はそれぐらいの気持ちは持っていると思う。 ・定期的な中学生対象の学校説明会だけでなく、私学のように日常的に生徒が目にするような刊行物を出し、部活動や進路実績等の学校の魅力を伝えたほうがいいのではないかと。昔は黙っていても生徒は集まったが、今は、どんどん学校がPRしていかないと流れは食い止められない。 ・今後、校舎制を取り入れる場合にそれぞれの学校（校舎）にはそれぞれの役割が有ることを考慮し、小規模校をただ組み合わせるのではなくそれぞれの役割をしっかりと理解したうえで、岩手ならではの制度づくりをお願いしたい。 ・校舎制より、小規模校を生かしつつ隣の学校同士で教員が兼務し、複数の授業を受けもつといったことも考えとしてあるのではないかと。 ・資料のデータから再編はやむを得ないという気持ちを持つが、もう少し存続するためにはどのようなことをしていけばいいかという議論ができるような資料を示していただきたい。